

## (7) 近畿



近畿地域では、景気は下げ止まりつつある。

- ・ 鉱工業生産は下げ止まりの兆しがみられる。
- ・ 個人消費は底堅く推移している。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあり、緩やかな持ち直しに足踏みがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(    は上方に変更、    は下方に変更)

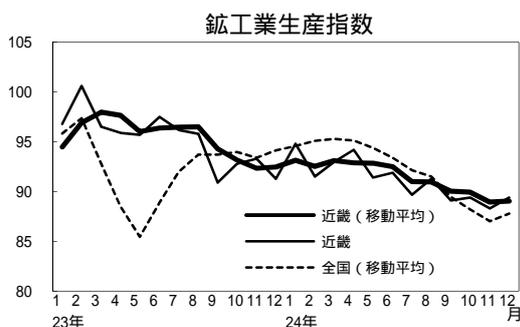
### 前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 24 年 11 月)	今回 (平成 25 年 2 月)
景況判断	弱含み	下げ止まりつつある
鉱工業生産	緩やかに減少	下げ止まりの兆し
個人消費	弱い動き	底堅く推移
住宅建設	減少	増加
雇用情勢	緩やかに持ち直し	緩やかな持ち直しに足踏み

## 1. 生産及び企業動向

### (1) 鉱工業生産は下げ止まりの兆しがみられる。

一般機械は受注減により半導体製造装置が低調であったことに加え、自動車用の軸受で生産調整が行われたこと、また、依然として外需の低迷により土木建設機械が低調であったこと等から減少している。化学はフェノールが中国の需要減により市況が悪化したこと等から減少している。食料品・たばこは飲料等で増加している。電気機械はセパレート形エアコンで一部の既存機種がモデルチェンジで生産終了となるものがあり、モデルチェンジ機種が立ち上がる過渡期であったこと等から減少している。鉄鋼は一部の品目で定期修理があったこと等から減少している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
一般機械	17.0	5.0	6.8	6.8	2.8
化学	14.5	4.0	0.5	0.1	3.6
食料品・たばこ	9.1	1.6	2.5	2.9	1.3
電気機械	8.5	0.7	3.0	2.6	0.0
鉄鋼	7.5	2.2	6.1	6.0	7.4
鉱工業	100.0	2.7	1.1	0.2	4.6

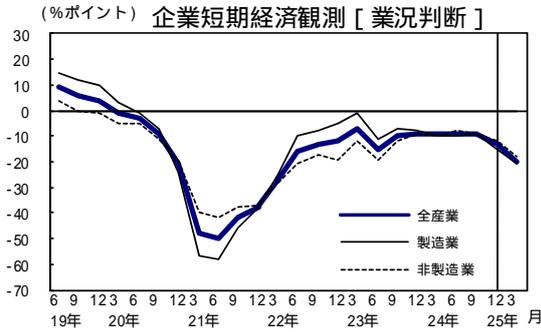
(備考) 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。

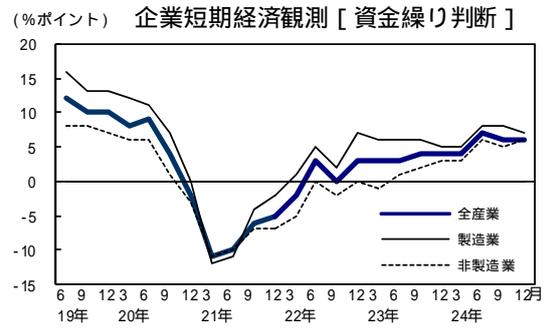
2. 全国及び近畿の大線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

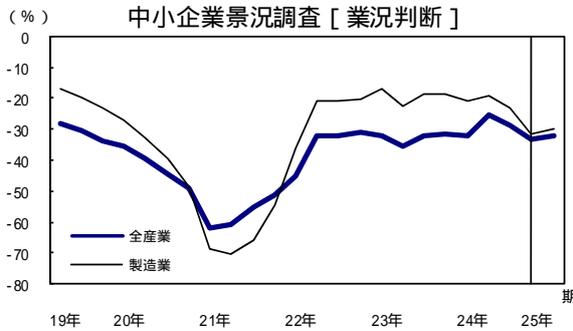
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。25年3月は予測。21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。25年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

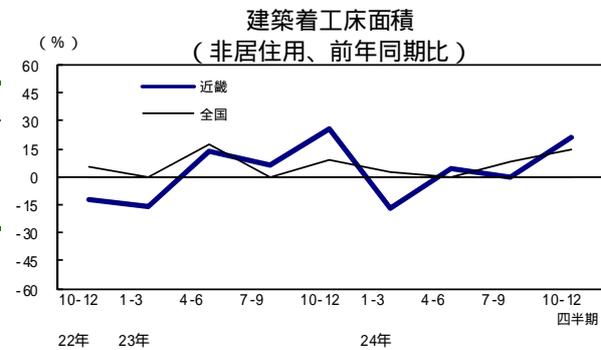
「政権交代により市況は明るくなってきているが、電気料金や鋼材の値上げといったマイナス要因もあり、今の段階で荷動きは増えていない(金属製品製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 24年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	23年度実績	24年度計画
全産業	8.6	9.3(0.7)
製造業	9.8	9.1(0.5)
非製造業	7.8	9.5(0.8)

(備考)( )は前回(9月)調査比修正率。



(7) 近畿

2. 需要の動向

(1) 個人消費は底堅く推移している。

大型小売店販売額

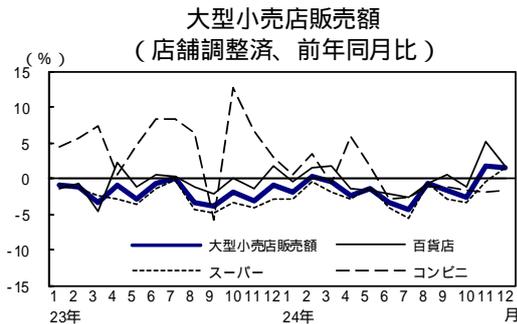
大型小売店販売額は、前年同期比で0.4%増、前期比で2.8%増となった。

百貨店は、10月は、前年に比べ土・日曜日が各1日ずつ少なかったこと等から前年を下回った。11月は、一部店舗の増床・リニューアル効果に加え、気温低下に伴い冬物衣料が好調であったことから前年を上回った。12月は、冬物衣料は前月が好調だった反動もあり低調であったものの、一部店舗の増床・リニューアル効果もあり前年を上回った。

スーパーは、気温の影響により衣料品が低調であったこと等から前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「年末からの気温の低下により、鍋物などの動きが良い。また、野菜の相場が急騰し、客単価の引上げにつながっているほか、豚、鶏肉などの動きも良い(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	24年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店(*1)	0.8	2.4	2.4	0.4
百貨店(*1)	0.9	1.8	1.2	1.9
スーパー(*1)	1.8	2.8	3.1	0.7
大型小売店(*2)	1.1	2.0	2.1	0.5
(季節調整値)(*3)	( 0.8)	( 1.1)	(0.3)	(2.8)
乗用車(*4)	47.0	66.0	14.7	4.1
(季節調整値)(*4)	(8.0)	( 3.1)	( 4.0)	( 4.1)

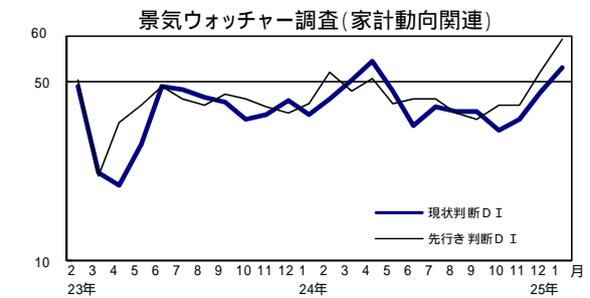
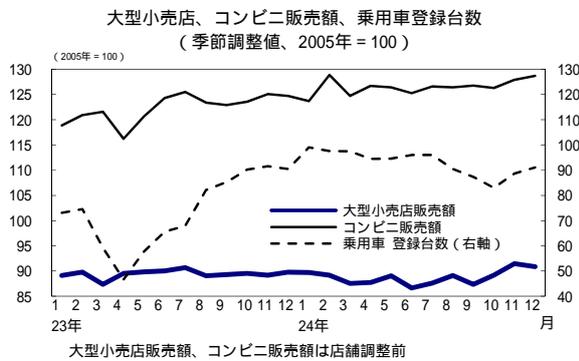
(備考) 1. 店舗調整済、前年同期比(%)

2. 店舗調整前、前年同期比(%)

3. 店舗調整前、前期比(%)

4. 乗用車は新規登録・届出台数

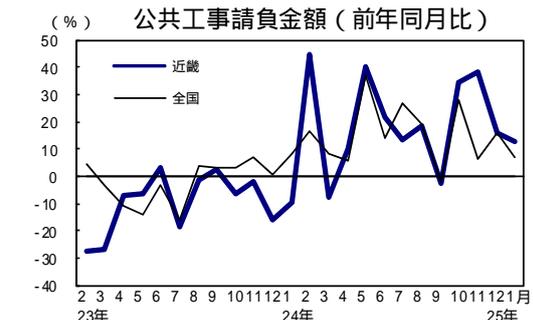
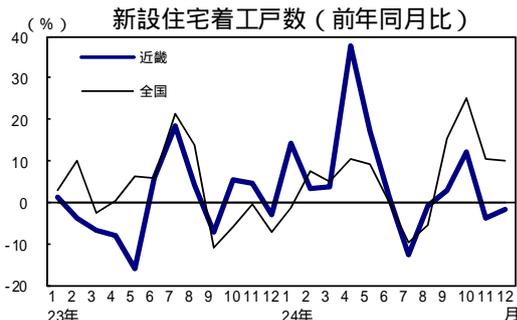
(上段：前年同期比、下段：前期比、%)



(2) 住宅建設は増加している。

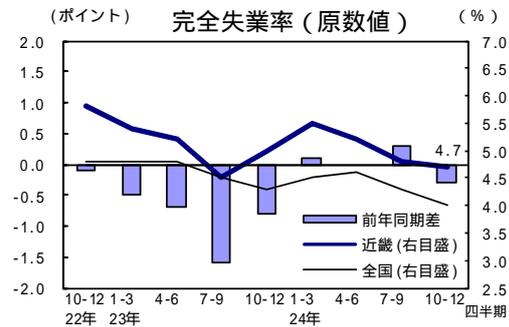
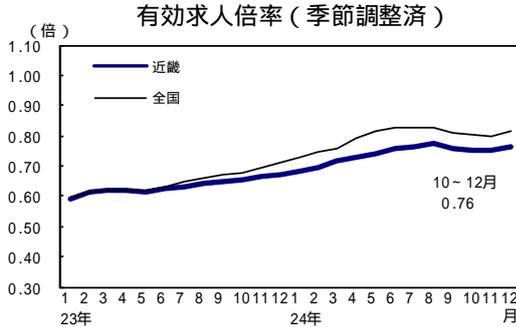
分譲が前年を下回ったものの、持家、貸家が前年を上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は24年度累計で見ると前年度を上回っている。



### 3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は厳しい状況にあり、緩やかな持ち直しに足踏みがみられる。  
 有効求人倍率及び完全失業率  
 有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。

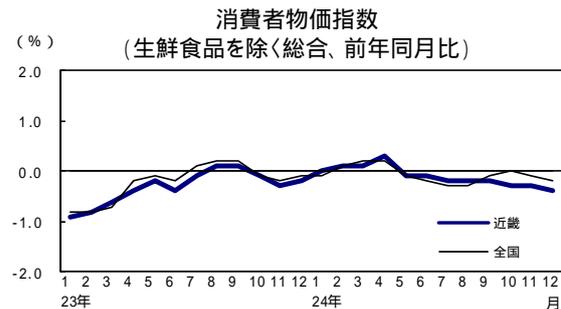


景気ウォッチャー調査 (1月)[雇用関連(現状)]  
 「製造業の落ち込みなどの影響で、求人数が減少傾向にある。円安による経済効果は、あまり求人数にまでは反映されていない(職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。  
 (3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

#### 企業倒産

	(件、億円、%)				
	24年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	25年1月
倒産件数	788	799	728	760	222
(前年比)	8.1	11.4	13.2	11.4	9.0
負債総額	1,019	1,565	4,668	1,148	282
(前年比)	29.5	52.4	316.5	13.7	24.7



#### 景気ウォッチャー調査 (1月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・年を越しても客足が衰えていない。接客していて、客の購買意欲を感じる(住関連専門店)

<先行き>

- ・円安で海外のブランド品が今後値上がりすることを見越して、高額品を中心に引き合いが増えてくる(百貨店)

